

日本人移民地の青年会

多 仁 照 廣

はじめに

日本近代青年集団史研究において、日本国外の青年集団について検討した研究には、大串隆吉『青年団と国際交流の歴史』（1999年刊 有信堂発行）の朝鮮連合青年団、多仁照廣「台湾の青年団」（敦賀短期大学『敦賀論叢』第8号 1993年）における台湾の青年団。太田弘毅「海軍軍政地域の青年団活動上・下」（軍事史学会『軍事史学』第17巻2・4号）のインドネシア海軍軍政地域の青年団、倉沢愛子『日本占領下のジャワ農村社会の変容』1992年刊 草思社発行）における陸軍軍政地域の青年団、後藤幹一『昭和期日本とインドネシア』（1986年刊 勁草書房発行）で触れられたスラバヤの青年団がある。

従来の研究は、朝鮮・台湾植民地とインドネシア占領地の青年団について検討されてきたが、その他の地域、殊に日本人移民地の青年集団についての検討は全くされていなかった。そこで、本稿では日本人移民が最も早くから入ったハワイそして北米、多くの移民が入植した南米からペルーとブラジルについて検討を加え、日本人移民の青年集団史研究の路を切り開きたい。

1. ハワイ（布哇）の青年会

ハワイと日本との関係は、1860年（万延元）年、遣米使節がホノルルで国王カメカメハ四世に会見し、日本との修好条約希望の徳川将軍宛親書を使節に託したことから国交がはじまった。1865（慶応4）年に、ハワイ政府は日本駐在総領事として米国横浜総領事館書記ヴァン・リードを任命した。リードが、1865（明治元）年に日本移民153人をホノルルに送ったことから、日本人移民の歴史が始まる。1885（明治18）年、官約移民第一船東京丸が着き、日本総領事館が置かれ、翌年には日布移民渡航条約が締結された。1893（明治26）年のハワイ革命によって王朝が倒れると日本人参政権運動が起き、女王退位の口付で日本に対する治外法権撤廃が通告された。1894（明治27）年、官約移民を廃止し、民間会社の移民輸送が開始された。日本政府は、移民の増加に伴い移民保護法を公布した。

1898（明治38）年，米国はハワイを合併し，翌年には米国移民法を適用して契約労働移民が禁止された。1908（明治41）年，日米紳士協定によって，ハワイへの新規移民渡航禁止となると，呼寄せ移民が始まった。1924（大正13）年，新排日移民法が実施され，呼寄せ移民も禁止となった。再渡航者・ハワイ出生者・旅行者を除く日本人はハワイ入国を禁止された。

『昭和三年 日布時事布哇年鑑』によれば，ハワイの青年会には（表①）のような団体があった。

（表①）1928（昭和3）年 ハワイ青年会・女子青年会一覧

ホノルル市

カパフル青年会 (T13, 30名)	アラパイ青年会 (T10, 50)	カカアコ青年会 (T6, 60)	布哇仏教青年会 (M33, 1150)
パラマ青年会 (一)	青年供励会 (一)	カリヒ交友会 (一)	モイリリ地方青年 会 (一)
西部青年会 (一)	モイリリ青年会 (一)	マノア青年会 (一)	ワイキキ青年会 (一)
神道青年会 (T15, 250)	カймキ青年会 (一)		
カカアコ女子修養 会 (一)			

オアフ島

ワイアナエ仏教青 年会 (M39, 54)	ポールシチー仏教 青年会 (一, 48)	ワイパフ仏教青年 会 (一)	ワイパフ曹洞宗信 有会 (一, 60)
エワ青年団 (T5, 34)	ワヒアワ仏教青年 団 (一)	カハルウ青年会 (一)	カイルア地方青年 会 (一)
アイエ独立青年 会 (一)	エワ四恩仏教青年 会 (一)		

布哇島

バ、アロア青年会 (T2, 18)	ワイナク青年会 (S2, 23)	パホア仏教青年会 (T14, 50)	カーチスタウン青 年会 (T2, 30)
----------------------	---------------------	-----------------------	-------------------------

カアパフ青年会 (T8, 25)	オーカラ青年会 (M45, 22)	ホノカア青年会 (T12, 14)	ハマクア聯合青年 会 (S2, 一)
カボホ仏教青年会 (T10, 12)	ニノレ青年会 (T2, 23)	コハラ仏教青年会 (S2, 32)	ワイアケア二番青 年会 (T10, 25)
ワイアケアミール 青年同志会 (T1, 40)	オーラア九哩旧館 府青年会 (S3, 23)	ホノヒナ仏教青年 会 (T3, 16)	カペフ青年自彊会 (T5, 15)
ハワイ青年会 (T14, 45)	ホエア青年共励会 (T2, 17)	コハラ中央青年会 (S3, 35)	ホノヒナ，マオカ 中央仏教青年会 (S2, 10)
カプナプナ青年会 (T15, 7)	ビホヌア青年会 (T13, 29)	パ、イコウ，マハ ルア青年会 (一， 15)	オノメア青年会 (一，30)
パピ青年会 (一， 20)	アマウル青年会 (一)	アマウル九回船青 年会 (一)	ホノコハウ青年会 (一)
ホロアロア青年会 (一)	コナ聯合青年会 (一)	オーラー仏教青年 会 (M42, 70)	ワイナク仏教青年 会 (一)
ペペケオ青年会 (T6, 35)	ヒロ仏教青年会 (M44, 150)	布哇島聯合青年会 (T8, 参加団数 32)	パパラ青年会 (T2, 30)
ペペケオ仏教青年 会 (T8, 20)	コナ仏教青年会 (一)		
コナ仏教処女会 (一)			

馬哇島

ラハイナ仏教青年 会 (一)	ラハイナ青年会 (一)	マカワオ日本人青 年会 (一)	カフルイ青年会 (一)
-------------------	----------------	--------------------	----------------

ケアファ青年会 (一)	ウィルク基督教青年会 (一)	パイア仏教青年会 (一)	スプレツクルスヴィル二番青年会 (一)
ブウネネ明照青年会 (一)	ウィルク仏教青年会 (一)	クラ青年同士の会 (一, 40)	ブウネネ本願寺仏教青年会 (一)
マカワオ少女倶楽部 (S3)	ケアファ少女会 (S2, 22)	カフルイ処女会 (一)	ウィルク仏教青年会 女子学生部 (一)

ラナイ島

ラナイ日本人青年会 (S3)

加哇島

アナホラ青年会 (一)	ワヒルア青年会 (一)	ケアリア仏教青年会 (一)	コロア仏教青年会 (一)
ハナレイ青年会 (一, 25)	ワヒアワ, ミール青年会 (一)	マカウエリ二番共和青年会 (一, 29)	ケカハ青年会 (一)
加哇東部明照青年会 (一)	リフエ仏教青年会 (M37, 128)	カバア仏教青年会 (一)	ワアヒア青年会 (M36, 40)
エレエレ仏教青年会 (T15, 35)			
ワヒアワ処女会 (一, 20)	エレエレ仏教処女会 (一)	ラワイ処女会 (一)	

(表①)によって、ハワイ移民社会における青年会および処女会について、その設立主体の種類・種類による設立年代の違いなどについて、特色を指摘することができる。

設立の主体には二つのタイプがある。一つは、宗教青年会。もう一つは、日本人移民入植地につくられた地域青年会である。

宗教青年会には、仏教青年会とキリスト教青年会があった。

仏教青年会には、浄土真宗本派本願寺や曹洞宗などがあった。その内、もっとも活動的だったのは本派本願寺で、ハワイの本派本願寺の仏教青年会は、1900(明治33)年に設立された²⁾。この時期は、本派本願寺の今村恵猛開教総長が、開教師として1899(明治32)年2月27日にハワイに渡り、翌1900年1月にハワイ布教監督となり、ハワイ本願寺教団の基礎を創った³⁾ときにあたり、今村開教総長は「ハワイに於ける仏教青年会の生みの親」とされる⁴⁾。

本派本願寺仏教青年会の活動は、仏教講座や晨朝礼拝会の他に、夏季学校、児童保護団などがあった。夏季学校は、6月から7月にかけて約1ヶ月間、中等程度の日本語、英語は小学からハイスクールまでが教育され、水泳も教えられた。児童保護団は、学校が夏季休暇中に児童が不良化しないように、5週間、各種運動・ゲーム・水泳などを中心に行っている⁵⁾。

仏教青年会の設立年代は1900(明治33)年であったが、(表①)では1906(明治39)年のワイアナエ仏教青年会が一番早い。移民地域社会に青年会が設立されるのは、(表①)で見ると限り、ワアヒア青年会の1903(明治36)年がもっとも早く設立されている。ついでワイワケアミール青年会が1911(大正元)年、1912(大正2)年には、パパラ・カーチスタウン・パバアロアの各地に成立している。

日本人移民の子弟の「不良化」問題は、1932(昭和7)年の16・7年前から問題視されたとある⁶⁾。これは大正4・5年、1910年代前半となる。「不良化」が問題となる1910年代は、移民地域の青年会が多く設立された年代に相当する。移民第二世代が青年時代をむかえる時代と一致することと考え合わせてみる必要があるだろう。

1932(昭和7)年6月20日発行の『同胞』372号には、ハワイに生まれた日系市民の日本国籍離脱者が増加していることを、喜ぶべき現象、と評価している。米国市民としての特権を得ている者が、依然として日本国籍を併有していることは国際信義から正しくないし、排日運動への対応、政府機関への採用という点からも、仏教青年会として実費で国籍離脱手続を取り扱うなど、積極的な取り組みを行っている。これは、日本人移民の現地同化への努力であり、「不良化」問題も現地同化への対応と考えられる。

“ひとりの移民青年の軌跡

布哇呼寄せ移民と青年会の関係を、広島県安佐郡長束村緑井出身の河田 登の場合についてみる⁸⁾。

河田 登は1899年(明治22)年に生まれた。父の惣四郎は小農民であったが、登が生まれた23才のときに、出稼ぎ移民としてハワイ国に渡った。

1912（明治45）年3月、尋常小学校を卒業すると登は大工の見習いに出たが、翌年5月、預けられた大工の都合で実家へ帰された。6月、緑井青年会館が建設されるとこれを手伝ったりしていたが、緑井の棟梁の下で働くことになった。9月になると、ハワイの父から呼寄せの手紙が来た。登が実際にハワイに渡航するまでにはこの後3年近く手続きなどにかかる。この間、登は緑井で大工の見習い続けながら村での生活を続けていた。その生活の中で、在郷軍人会支部長の医師から衛生講話や、青年会長の演説を夜学で聞いたり、どんど焼き・氏神祭・伊勢草祭などの民間信仰行事、お逮夜といった本願寺行事、郡青年武道大会や在郷軍人会と青年会による戦捷記念碑建設などを楽しみ、経験している。その中で、1915（大正4）年4月の日記には、オアフ島で起きた砂糖耕地日本人労働者の第一次ストライキとその敗北の新聞記事を記している。

1916（大正5）年4月、登の父から在留証明が来た。渡航準備が始まると、周囲はどうせ嫁を呼寄せなくてはならなくなるのだから、と許婚者との縁談も整えられた。9月30日、登は神戸港からペルシャ丸でハワイに向けて旅立った。

10月12日、ホノルルに到着。入国審査を経て一ヶ月後の11月12日にコナのホノウナウの父に会った。翌1917年4月から登はホノルルの日本人 YMCA に寄宿して、大工手間稼ぎをしながらミツキ教会の夜学で英語を学習した。7月に米国徴兵登録をした。1919（大正8）年4月の登の日記には、キリスト教への改宗者が少なくなつて、仏教勢力が拡大していることと、キリスト教日本人宣教師が白人資本家から資金を得て、懐柔策の一端を担っているのではないかという疑いを記している。

登が教会や日本人 YMCA と宣教師に関りながら、懐疑の目を向けていた背景には、日本人労働者の置かれた立場が影響していると考えられる。日記の記事の翌年2月には、ハワイ全島各砂糖耕地日本人労働者が低賃金労働に対して6ヶ月の間ストライキ体制に入った。このストライキの前の同年1月7日、マキキ青年会の松島氏との談話で、宗教に全く関係ない独立した青年会ができたら、青年が何の抑圧も受けずに伸び伸びした青年らしい青年に育つだろう、と語り合っている。

この記事の前後、青年会の記事が日記に散見されるようになる。2月28日、マキキ青年会発会式が80名の参加者を得て日本語学校において行われ、呼寄せ青年と二世とが半々に参加した。4月7日、アラバイ青年団が演芸会を催し、カカアコ青年団は演芸会純益をストライキ中の耕地労働者に寄付した。10月、カフマス官立学校夜学開始。英語学習が米化の運動の一部として行われた。これは第一次大戦で、英語が分からない青年が多く入営したことによった。11月21日には、マキキ青年会館落成式。1921（大正10）年3月4日に、マキキ青年会第一回演芸会

が行われた。

1921年11月5日、登は結婚し、23（大正12）年には長男が誕生した。そして、この年、呼寄せが禁止となった。1924（大正13）年、ハワイ在留日本人は12万人を超え、その内の4分の1約3万人が広島県人であった。

① 北米の青年会

北米へ渡った日本人は、幕末から1881（明治14）年ごろまでは学生が中心であった。その他に労働を目的にした渡航者があり、その最初は1869（明治2）年にスネールに引率された二度にわたる20名内外の金鉱掘と農園労働の契約移民であった。1886（明治19）年、イギリス人に連れられた7人の移民が加州サンタクルーズ郡に入植して蜜柑の栽培を始めたが失敗した。農園開拓はなかなか成功しなかったが、1884（明治17）年中国人排斥法によって農園労働者が不足すると、日本人農園労働者が増加し、1890（明治23）年には、300名を超え、92（明治25）年にはヴァンカビルに日本人労働組合が組織された。1892（明治23）年を前後してハワイからの転航者が増加し、出稼ぎ目的の人々が急増した。さらに、日清戦争後には増加し、1880（明治13）年147名であったものが、1890（明治21）年に2,039名、1900（明治33）年には34,326名、さらに1910（明治43）年には72,154名に激増した。日清戦争後、米国では排日気運が高まり、米国政府は1907（明治40）年に日本人労働者のハワイからの転航を禁止した。日本政府も渡航を禁止した。日露戦争後、排日運動は高まりを見せ、これに対して1905（明治38）年5月に各地方日本人協議会は聯合協議会を成立させた。聯合協議会は1908（明治41）年1月、在米日本人会に発展的解消し、地方都市においても日本人会が族生した。第一次大戦を経て、1924（大正13）年、米国新移民法が成立し、日本人は除外項目以外の米国入国が出来なくなり、二世の教養指導に努めた。⁹⁾

① 北米の青年会概観

北米の青年会については、在米日本人会編『在米日本人史』（昭和15年刊、PMC出版、1984年復刻版）によって概観する。

シアトルでは、1907（明治40）年12月に、会員90名を数えるシアトル日本人青年倶楽部が組織された。賛助員には北米同胞の二功労者と評価されている松見大八と古屋政次郎の名がみえ、シアトル日本人社会の有志が参加したものと考えられる。

サンフランシスコ（桑港）では、1913（大正2）年9月、サンフランシスコの日本人キリスト教徒有志が万国基督教青年会総務ジョン・モットに書簡を送り、本部よりの資金援助を受けて日本人のための青年会館建設を求めた。この願は直

ぐには実現しなかったが、長老派と組合両教会は合同し、長老派に属していたヘート青年会は超派的な基督教青年会の設立を目標として解散した。しかし、新組織の結成は直ぐにできず、青年会が無い状態が続いたが、1918（大正7）年になり、6月1日に桑港日本人基督教青年会が成立した。1935（昭和10）年には、新しい青年会館が建設された。二階建ての会館には、ジム・講堂・教室・図書室などがあり、聖書研究などの宗教活動、夜間英語学校、職業紹介所、各種運動競技などの活動が行われた。

桑港女子青年会は、在米日本人社会で最も古い歴史を有する。創立は1912（明治45）年4月17日で、帝国ホテル跡に会館を定めた。修養・社交・工芸・教育・音楽・寄宿の六部の活動の他に、女子倶楽部活動を活発に行い、1916（大正5）年以降、写真結婚が激増すると新渡米婦人の止宿所となり、青年会の保護保証によって移民局に上陸を許可されることも極めて多かった。

桑港仏教青年会は、在米日本人約2万人にはキリスト教しか布教がなく、仏教布教の機会を求める在米日本人の働きかけによって本派本願寺がアメリカ布教の起点として桑港を位置づけたことに呼応して、取りあえず仏教青年会の創立発会式が、1898（明治31）年7月30日に行われた。桑港仏教青年会は本山に対して布教使派遣方請願書を提出した。降誕会、英和学校開設、本願寺出張所開設、サクラメント方面への地方遊説等の活動を行っている。仏教青年会は、サンフランシスコからサクラメント、フレズノ、シアトル、オークランドなどに相次いで設立され、それが仏教会の前身となったことに特色がある。

各地に成立した仏教青年会は、1926（明治45）年4月26日に北米仏教青年聯盟を結成した。一方、シアトルを中心とする西北部の青年会は1933（昭和8）年、ソルトレークを中心とする山中部は1934（昭和9）年に、それぞれ西北部聯盟、山中部聯盟を組織し、全米には三つの仏教青年会聯盟ができた。1937（昭和12）年にサクラメントで開かれた全米の仏教青年大会において、全米仏教青年聯盟が結成された。

女子仏教青年会も、男子に並行して中加・北加・南加・沿岸の四聯盟に別れていたが、1927（昭和2）年に全米女子仏教青年会が結成された。さらに、1940（昭和15）年に男女が合流し、全米男女仏教青年聯盟と改称され、二世団体中最大の団体として5,000人の会員を擁した。

② 中部および東部の青年会

シカゴでは、グランドセント街に1907（明治40）年に（基督教）日本人青年会が創立されていた。1922（大正11）年頃には、一時アメリカ人青年会の支部となっていたが、1929（昭和4）年に独立した。

ニューヨークでは、1908（明治41）年に紐育青年会が創立されている。この紐

育日本人青年会は、宗教的な色彩を加味せず在留日本人青年の親睦を維持し、智識の交換、品性の向上をはかることを目的に、会長は置かず、「会館」を設け、止宿会員が自炊した。基督教青年会は、1893（明治26）年に紐育にきた武市（ブルックリン）海軍鎮守府所管米国軍艦ヴァモントに多数乗り組んでいた日本人学生に対して布教した岡島欣也氏の活動が、武市青年会の前身となった。¹⁰⁾

アメリカ全体の青年会について地域的に概観したが、地域的ではなく日本人社会特有の問題から結成された青年会について触れる。それは、幼児に日本に帰って生育し、再び米国に帰った日系市民である「帰米市民」の青年会である。二世が著しく帰米するようになったのは、1930（昭和5）年頃からで、特に35（昭和10）年に在米日本人会が旅費支給や帰米後の就職保証など積極的な帰米運動を展開したことによる。帰米二世の特色として、在米の両親と離れて多くは祖父母によって生育されたことによる両親との不愛情が一致、また単身帰米して身寄りが無いために孤独感などによって、相互に慰め合って団結を強めていった。シアトルの帰米市民協会は1932（昭和7）年に組織された。しかし、既に米国育ちの二世によって組織される市民協会との対立が起こった。1935（昭和10）年にロスアンゼルスでは、羅府日系市民協会に帰米部ができて合流になると、各地に波及した。桑港では、帰米市民団体として、満州・上海事変を契機に組織された国家主義的な色彩の強い、1932（昭和7）年創立の大日本青年会、呼び寄せ青年・留学生等によって組織された学生倶楽部・1934（昭和9）創立の美以教会青年会があった。美以教会青年会は、帰米青年といえども永住する以上米国主義に立脚した米化運動に日本精神を融合しなければならないという立場を主張した。その結果、桑港口系人社会の世論も市民協会への合流運動を支持し、1936（昭和11）8月、大日本青年会と学生倶楽部は市民協会に発展的に解消して、市民協会に合流した。

帰米二世の市民協会への合流の一方、県人会や市民協会内部に帰米二世の青年会が設立された。南加ロスアンゼルスでは、帰米二世については、広島県人青年会・沖縄県青年会・美以教会青年部・西本願寺帰米部・高野山別院帰米部。二世と帰米の混合は、福岡県人青年部・和歌山県人青年部・熊本県人青年部・山口県人青年部・天理教内青年部・禅宗寺青年会・ユニオン基督教会青年部・YMCA内青年部・生長の家青年部があった。

北加のサンフランシスコ（桑港）では、桑港仏教会黎明会・リオームド教会青年会・若草会・親友会・和歌山県人青年会・神奈川県人青年部・福岡県人青年部・YMCA青年部・YPCC日本語部桑港部会・禅宗仏教青年会。羅府では青年協会。王府日米協会内帰米会員・独立協会内青年部・パロアルト帰米青年会・サンマテオ市協内帰米会員・フレズノ帰米市民倶楽部。西北部は、シアトル帰米市

民協会などがあげられている。

婦米市民青年会の活動には、以下のような内容があった。

羅府市協婦米支部…「二世週」への参加・二世会館設立運動・青年聯盟設立運動・排日諸法案反対運動・英語クラスの設置・婦人聯盟との提携の下に結婚相談所設立・「市民の友」発行・敬老歌の発表大会・登録奨励立候補者の紹介などの政治運動。

紗港婦米市民協会…移民局収容婦米市民の世話・婦米演劇大会主催・ピクニック。

桑港市協婦米部…市協県建設活動・大ピクニック主催・登録奨励運動・「婦米市民」の発行・日米通商条約破棄に関する座談会・婦米集会場設置運動・婦米連絡協議会設定運動・金門大博日本ディー参加。

サンゲープル市協婦米部…農業に大きな役割。

桑港広島県人青年会…婦米青年雄弁大会・青年聯盟参加・二世男女交歓見学団支持。

須市、市協婦米部…一九四〇年婦米市民大会開催・二世座談会。

基督教青年聯盟日本語部…聯盟大会参加・基督教会内婦米団結運動。

王府日米協会…雄弁大会主催。

桑港和歌山県人会青年会…和歌山県人会加州聯盟結成。

若草会…婦米女子団結・婦人問題研究会

③ 南加州の青年会

北米における青年会について考えるとき、1930年代には加州全体の日本人の47%¹¹⁾を占めた南加州の場合を見ることが適切だろう。

南加州の日本人青年会は、「当時の在留日本人自身がいずれも青年であったため団体の内でも最も古く、色々な団体がまず青年グループとして発足した¹²⁾」という指摘が重要である。

南加州での青年会の動きについて、南加州日本人七十年史刊行会編『南加州日本人七十年史』（1960年刊、南加州日系商業会議所発行）によって追って行く。

南加州で一番早い青年会は、1888（明治31）年の日本人基督教青年会である。89（明治32）年の不況のときに合宿所を設け、これが成長して日本人美以教会となった。基督教とは別に1899年には、相互扶助を目的に日本人青年会が、既にあった羅府日本人会ならびに有終俱樂部に対して設けられた。その後、日蓮教会の前身の日蓮研究会、野球倶楽部、青年楽友会、岡山県人会の前身である岡山青年会。1913（大正2）年には日本人基督教女子青年会が組織された。

1915（大正4）年前後から初期移住の人々の事業が漸く土台が出来ると、郷里に残した子弟の呼び寄せが盛んになり、20（大正9）年の呼び寄せ禁止まで続い

た。1910（明治43）から20年までの間に、加州日本人人口は41,000余から72,000に増加した。呼び寄せ子弟の増加は、1920（大正9）年ごろから南加州各地に日本人青年会の結成が行われた。そこで南加州中央日本人会代表者大会は、

一、女子青年会経費補助請願の件は年百五十弗を補助する。

二、学生会経費補助の件は二百五十弗を補助する。

三、中央日本人会内に青年部を設置する。

四、各地に青年会及び婦人会の設立を奨励し、その発展に精神的援助をなすこと。

を決議した。

青年部委員会は、「在米青年規約」を制定した。

一、在米同胞の青年は知識を磨き、徳操を練り、体格を鍛え信念を養い、もって国際的青年として理想的の人格を要請すべし。

二、在米同胞の青年は日米両国伝来の文化を体得融合して世界的新文化の樹立を期すべし。

三、在米同胞の青年は堅忍不撓自任自重して日米の親善と全人類の幸慶に貢献すべし。

この在米青年規約を見ると、在米青年に対して、日本人としてのアイデンティティー醸成とアメリカへの同化融合を求めた内容である。

在米青年規約制定の翌年の1922（同書青年会同盟記事から23の誤りと考えられる）（大正12）年2月、中央日本人会定期代表者会は、次のような青年指導に関する決議を行った。

青年指導に関する決議

本理事会は青年の向上進歩に関する運動の重要性を認め、極力之が後援を為すと同時に一般在留同胞が深甚なる同情を寄せ協力せられんことを切磋商す。

中央日本人会青年部委員会は、1922（大正11）年1月に各地青年会の代表者総会を開き、翌1923年度の第2回総会で青年部が設置された。

1923（大正12）年4月7日、青年部委員会は青年会運動の中心機関である青年同盟を積極的に援助することに決定し、

一、本青年部は南加州日本人青年同盟が第二回総会に於いて声明せる在米青年の向上運動の主旨に賛し其目的を達成せしむる事を期す。

二、本青年部は何加日本人青年会同盟発行雑誌『在米青年』に対し月額廿弗を補助す。

として、それまで羅府青年会が発行していた雑誌『在米青年』（月刊）を、青年同盟が百弗で版權を買収して、同年5月から第1号を発行した。

青年同盟は、毎年4月に「青年週」を設け、雄弁会や柔剣道大会など青年及び

一般の啓発活動を行い、1924（大正13）年からは「南加帝国議会」が『在米青年』社主催で開催された。「青年会同盟の歌」の制定、日本観光団派遣などを行った。しかし、在米青年が年齢を重ねて事業と家庭の人になるに連れて青年会運動も凋落に向い、日系市民協会に指導的な地位を譲った。『在米青年』は1925（大正14）年から『日本家庭の友』、更に『太平洋』と改題され、アリゾナまで広まり、毎月2、500部発行されたが、1931（昭和6）年に大恐慌の影響で廃刊となり、南加青年同盟も終息した。

南加州の青年会運動は、1930年代になると、呼寄せ青年時代から日系二世時代に移り、青年団体は運動・同窓会・宗教・県人会に大別されるようになった。特に県人会青年部は30年代後半に帰米二世の増加によって急に活発化された感があるとされ、日系市民協会も各地に結成され、日米開戦によって一時阻まれたが、日系二世の育成に大きな役割を果たした、とされる。

④ 在米沖縄県青年会

県人会青年会の典型例として沖縄県青年会の場合について見る。

沖縄青年会は、1921（大正10）年に創られた「れいめい会」と、「在米沖縄青年会」があったが、れいめい会は25（大正14）年頃には社会問題研究会へ発展的に解消し、県人会は1925（大正14）年に解散した。県人会解散後、沖縄海外移住協会南加支部が結成され、在米沖縄県人会の会長であった新垣武久に対して協会¹³⁾は青年会にも合同を呼びかけたが、新垣はこれを拒絶して帰国したため、青年会も自然解消した。

沖縄県青年会がなくなってしまった状態の中、1926（大正15）年になるとロスアンゼルス¹⁴⁾の沖縄青年たちが中心になり、再び在米沖縄青年会が結成された。青年会の目的は、会員相互の親睦・体育・知育・生活の向上で、活動としては野球・沖縄新聞の購読・会報の発行・ピクニック・演説会などであったが、特に米共産党大会に際して、青年会会員が検束されたロングビーチ事件などに現れた「好ましからぬ移民」の本国送還の動きへの支援対応などがあった。

創立当初、会員は26歳前後が多かったが、次第に年齢に制限がなくなり、青年期を過ぎた人達も入会するようになった。1934（昭和9）年8月26日の定期総会で、会員には青年期を過ぎた者もあるので青年会はふさわしくない、非会員が年齢の上で青年ではないので入会できない、大人子供を抱擁できる団体に発展させる、という理由で「在米沖縄青年会」を「在米沖縄県人会」と改称する動議を提出した。改称の件は1930（昭和5）年九月の幹部会で初めて提案され、4年間かけて討議した結果であり、総会は満場一致で改称を決定した。¹⁵⁾

3 南米の青年会

① ペルー（秘露）の青年会

第1船佐倉丸が790名の移民を乗せて1899（明治32）年にペルーについて以来、第2船1903（明治36）年1、079名、第3船1906（明治39）年774名が着き、1909（明治42）年には領事館が設けられた。

1907（明治40）年、笠戸丸で第4回移民452名（内、第1回明治移民会社移民250名）が着いた。この年、明治移民会社は、インカ・ゴム会社との間に5年間に日本人移民5,000人を入れる契約が結ばれた。¹⁶⁾

ペルーにおける日本人移民が増加するに伴って、日本人団体設立の動きが出てきた。1906（明治39）年に、「リマ日本人理髪組合」がリマ市19軒の理髪業者によって結成された。¹⁷⁾結成の背景は、リマ市における日本人最初の理髪業者は1904（明治37）年の愛媛県人であったが、3年後には25軒に急増した。これに対してペルー人理髪業者は71軒であったものが40軒に急減少したため、排日感情の惹起に配慮したことが組合設立の大きな動機であった。理髪組合は当時唯一の日本人団体として、在留邦人のための西語習得夜学校を設立するなど、社会的文化的活動も行った。¹⁸⁾

理髪組合に続いて結成された日本人団体は、「沖縄青年同志会」で、1909（明治42）7月30日のペルー独立祭に設立された。沖縄県人がペルーに來航したのは第3船からであったが、耕地に入ってから脱走する者が多く、その殆どがマラリアに罹患してリマ市に辿り着き、言語不通の地で命を失う者もでるという悲惨な状態があった。第4回で監督をしていた八木宣貞は、日本人最初の雑貨店を営んでいた。この雑貨店に同県人を引き取って救済活動を行い、在留県人会設立の必要性を痛感していた。八木は友人や領事に相談して、リマ・カヤオ在住の県人を勧誘してリマ市カメルン・アルト街の赤嶺喫茶店において沖縄青年同志会を結成したのである。沖縄青年同志会は、脱耕病人の世話、頼母子講の運営などの活動を行い、会員は年々増加し、「沖縄県人会」に発展し、ペルー在留邦人の6割を占める中枢団体となった。¹⁹⁾²⁰⁾

1912（明治45）年10月2日、在留日本人諸団体の代表が集まる「日本人協会」が設立された。日本人協会には、各県人会・理髪組合・青年同志会、その他大小の商社も参加し、一応在留邦人の代表機関の体裁を整えた。翌年11月30日には邦字新聞『アンデス時報』を創刊した。しかし、日本人協会の中心が官吏や会社・商社員などのいわゆるインテリ層であったため、移民青年との間に確執が起き、青年達は「日本人同志会」を結成した。1914（大正3）3月15日には「日本人会」と改称した。会長には椎原定一、副会長には八木宣貞が就任した。日本人同

志会の結成により、日本人協会は衰退し、新たな在留邦人全体の代表機関である「ペルー中央日本人会」が1917（大正6）年に創立されると、吸収されて自然消滅した。²¹⁾

1929（昭和14）年5月、中央日本人会を母体に、在秘露日本人青年団が結成された。²²⁾

② 伯刺西爾の青年会

ブラジルにおける青年会については、1933（昭和8）年版の『伯刺西爾年鑑』（伯刺西爾時報社発行）によってその大概を知ることができる。

都市並びにその郊外

サン・パウロ青年会（団員数140名）	サンタ・アンナ青年会（－）
--------------------	---------------

サントス及びジュキア線地方

レDESTロ青年同志会（29）	モテ・パラス青年会（48）	セードロ青年会（45）
-----------------	---------------	-------------

中央線地方

スザノ青年会（48）	共栄青年会（－）	青年同志会（20）
------------	----------	-----------

ソロカバナ線地方

第二モンソン聯合青年会（71）	第一モンソン青年会（25）	オウリニヨス青年会（－）	アルデイア青年会（48）
ユニオン農場青年会（17）	文化植民地青年会（31）	パラグワスー青年聯盟（－）	リベロン・グランデ青年会（－）
青葉青年会（20）	パストス青年会（75）	幸運青年同盟（128）	鷗翼青年会（－）
向上青年会（－）	明治青年会（－）	暁星青年会（－）	平和青年会（（－）
ブ・ブルテンテ青年会（－）	昭生青年会（－）	三共青年会（－）	ポア・ヴィスタ青年会（－）
サウダーデ青年会（－）	レプレーザ青年会（－）	スール青年会（－）	梅辨青年会（52）

正和青年処女会（－）	サンタ・マリア青年会（－）	ビケロピー聯合青年団（－）	プロゲレッツソ青年会（－）
クララ青年会（－）	ラゴア・セツカ青年会（－）	アグア・ペアード青年会（－）	ボツワン青年会（－）
日之出青年会（－）	美和青年会（－）		

梅辨処女会（－）	ソブラード処女会（－）	正和青年会（前出）
----------	-------------	-----------

ノロエステ線地方

パラコン青年会（21）	ポア・エスペランサ青年会（12）	平野植民地青年同志会（31）	バツカ青年会（15）
ペンナ町青年会（30）	サンタ・ベルジーニャ青年会（－）	サンタ・マリア青年会（－）	エステーラ青年会（－）
フローラ青年会（－）	ノゲーラ青年会（－）	タパジー青年会（－）	フレデリコ青年会（－）
サンタ・リツタ青年会（－）	第二マラヴィリア青年会（－）	汎カフェランチア青年団（－）	カフェランチア青年会（－）
プロミツソン青年聯盟（300）	プロミツソン町青年会（30）	パラマンサ・パレーロ青年同志会（22）	パラマンサ青年会（20）
パツチンニョ青年会（20）	コレゴ・ケツシアード青年会（15）	サンタ・イザベル青年会（16）	カンジット・モンテイロ青年会（12）
サンタ・オリンピア青年会（47）	パレーロ青年会（9）	ノーヴアメント青年会（18）	ゴンザガ・カペセーラ青年会（43）
同 第一区青年会（23）	同 第四区青年会（20）	同 中央青年会（22）	ビリゲキジニョ青年会（22）

ビリゲキジニヨ第四区青年会 (14)	ボン・スセツソ殖民地青年会 (39)	コレゴ・アズール青年会 (30)	ボラ青年会 (47)
第一区ボラ青年会 (39)	カスカチニア青年会 (15)	アンチニヨ青年会 (52)	ペナポリス青年同盟 (634)
アグア・リンパ青年会 (20)	アレグレ青年会 (42)	アグア・ボア青年会 (26)	ビリグキ青年聯盟 (350)
コレゴ・イリージョ聯合青年会 (一)	バガス青年会 (一)	フェジョン青年会 (一)	ビリグキ青年会 8 一)
ペロバール青年会 (一)	コレゴ・ロベルト青年会 (40)	バレエロ青年会 (25)	コレゴ・リン青年会 (30)
中央コレゴ・コロニア青年会 (25)	アラサツバ青年会 (17)	カフェゾポリス青年会 (一)	アヴェニダ青年会 (一)
コレゴ・プラタ青年会 (一)	下流アグア・リンパ青年会 (一)	日之出植民地青年会 (10)	第一アリアンサ青年会 (一)
第二アリアンサ中央青年団 (一)	第三アリアンサ青年会 (一)	チェテ青年会 (一)	パルミーツタール青年会 (25)
フィゲラ青年会 (20)	ガンボネーザ青年会 (25)	サン・ジョアン青年会 (24)	昭和向上青年団 (25)
上塚第一区青年会 (32)	ゴヤンベ中央青年会 (一)		

サンタ・マリア処女会 (一)	パツカ処女会 (一)	ゴンザカ植民地処女会 (25)	ボン・スセソ処女会 (26)
第二アリアンサ処女会 (一)			

ノロエス変更線地方

サンタ・ロウルデス青年会 (17)	コレゴ・ナツセンテ青年会 (30)	旭青年団 (16)	サンタ・テレーザ青年会 (14)
-------------------	-------------------	-----------	------------------

サント・アントニエツタ青年会 (18)	ミモーゾ青年会 (15)
---------------------	--------------

パウリスタ線地方

パウリスタ延長線年聯盟 (一)	ヴィジランシア青年会 (15)	ドアルチーナ青年会 (一)	オンサ青年会 (30)
福寿第一青年会 (31)	甦生青年会 (15)	希望青年会 (一)	ヴェラ・クルース曙青年団 (26)
アルヴアロ青年会 (一)	パウリスタ興農団年団 (33)	サンタ・イリア青年会 (11)	ニポランジア青年団 (11)
ガヴィオン青年団 (36)			

モジアナ線地方

フィゲイラ青年聯盟 (19)

ドラデンセ線地方

サン・フランシスコ耕地青年同志会 (22)	ノーヴァ・ヨーロッパ聯合青年会 (一)
-----------------------	---------------------

アララクアラ線地方

平和青年会 (20)

リオ・デ・ジャネイロ市及び付近

ニロポリス青年会 (一)

サン・パウロ パラナ線並びにサンパウロ 南大河線地方

北巴青年団 (30)	カンバラ青年会 (14)	北パラナ青年会 (一)	ヴィラ・ジャポネーザ青年会 (一)
------------	--------------	-------------	-------------------

以上、140団体の青年会があった。各種邦人団体全体でみると、日本人会223団

体、婦人会12団体（内、処女会8団体）、その他53団体であり、青年会は邦人団体の約34%を占めている。

ブラジルの日本人移民地における青年会の設立状況を、サンパウロ州ノロエステ鉄道線のリンス駅についてみる。リンス駅に日本人が入植したのは1908（明治41）年の第一回移民9家族、1910（明治43）年の第二回18家族、第3回が入ったのが開発の初期であった。1926（昭和元）年、「汎リンス青年会」が創立された。汎リンス青年会は事業として郡内の2,000家族の日本人の郵便物の取扱、パウ爾領事館指定の書式や届一般の取扱、農事講習会と品評会を行った。また、汎ノロエステ日本人聯合運動会を主唱開催し、雄弁会開催、機関誌『共鳴』の発刊（1926年）、図書館設置などの活動を行った。こうした公益的な事業を始めたのは、汎リンス青年会が植民地で初めてであった²³⁾される。

元サンパウロ州であったパラス州処女林地帯のトレスパラスに入植が始まったのは、1928（昭和3）年であった。北パラナの日本植民は、1926（昭和元）年に野村財閥の野村農場、28（昭和3）年には慶応義塾学生達で組織された後宮農場が建設されたが、いまだ開発の歩みは遅かった。トレスパラスの開発が着手されたのは1932（昭和7）年で、海外移住協会連合会の方針が転換されて土地分譲から、移住者の独立助成と福利の増進、産業の開発、教育衛生設備整備、ブラジル文化への貢献を目的とするようになったことが背景にあった。財閥資本から独立小農民が開発の中心となった。移住地では科学的な農家経営のために、33（昭和8）年にトレスパラス農会が結成された²⁴⁾。

1934（昭和9）年、移住地事務所はブラジル拓殖本部の意向を受けて、「ガット運動」を展開した。ガット運動は簡単に言えば「愛土永住」の運動であり、その担い手として青年層が期待された²⁵⁾。

トレスパラス青年団は、1935（昭和10）年3月3日に誕生した。その事業には、文芸部が機関誌の発行、運動部が陸上競技会開催、その他母国東北地方飢饉への義捐金送付、移住地内郵便物の取扱などがあった。1937（昭和12）年、トレスパラス青年団は、市街地及びセボロン青年団の加盟を得、7支部加盟の下に各支部を自治制として独立を尊重し、聯合体制を採り、トレスパラス青年聯盟が成立した。青年聯盟は郵便物取扱、図書部、機関誌発行、陸上競技部、野球部の活動を行い、中央グラウンド、カンボ市街地を勤労奉仕で建設した。その後、青年聯盟はコチア中堅青年講習会への講習生派遣、トラコーマ治療講習会、機関誌『楮土』の発行、邦語夜学、読書奨励、衛生事業協力などをおこなった。1940（昭和15）年になると、欧州戦争から世界大戦へ移行する情勢下で、青年聯盟は準産業的な青年聯盟へ改組し、従来の活動に加えて増産や農家簿記などの経済関係、雑誌『青年』および『家の光』『産業のブラジル』の普及宣伝や読書会指導、冠婚

葬祭経費節約運動への協力などの生活改善に活動した。しかし、日本の対米宣戦布告によって世情が悪化したために青年聯盟は活動を休止した²⁶⁾。

第二次大戦後、トレスパラス青年聯盟は1946（昭和21）年に復活した。また、1954（昭和29）年にはトレスパラス連合女子青年団が結成された。これらの戦後の動きは、コチア青年や南米産業青年運動と共に別稿で検討したい。

③ パラグアイの青年会

パラグアイで青年団が最初に結成されたのは、入植2年目の1937（昭和12）年であった。青年会間館の建設・スペイン語学習会・公益奉仕・スポーツ競技・演劇など多種多様な活動を行った。しかし、1943（昭和18）第2次大戦により、他の団体や日本語学校とともに、パラグアイ政府から活動停止を命じられ、解散せざるを得なかった²⁷⁾。

—まとめ—

本稿では、ハワイ及び北米、ペルー及びブラジルを対象に日本人移民社会と「青年会」について検討してきた。ハワイの青年会には、キリスト教青年会と仏教青年会の宗教青年会と、入植地の地域青年会が成立した。ハワイには見えないが、北米では、官吏・留学生・商社員などのインテリ層のニューヨーク青年会があった。

宗教青年会と地域青年会では、宗教的なこだわりがない地域青年会が期待された。ハワイでは1910年代、南カルフォルニアでは1920年代に日本人青年会が多く設立された。その背景には、呼寄せによる帰米二世の増加があり、地位向上のため、排日運動に対する相互扶助、日本人としてのアイデンティティーの醸成とアメリカへの同化融合を目的に活動した。1924年の新移民法によって呼寄せができなくなると、二世の県人会青年会ができ、これは県人会へと発展していった。

南米ペルーでは、鉱山などで働く日本人を救済する目的で沖縄県青年会ができ、これが県会に発展した。インテリ層との確執から青年会の中心的な役割を果たした人々は、ペルー中央日本人会を結成した。

ブラジルでは、1930年代に各入植地に青年会が成立し、入植地の郵便業務を請負うなど、行政面の仕事をして資金源としていた。

パラグアイでは、入植2年目の1937年に青年団ができた。

移民のほとんどは官吏・学生・商社員さらに一般の移住者もその多くが、若い男子で「青年」であった。殊に一般の移住者は、河田 登の例に示したように、日本において青年会（団）の活動に関っていた。沖縄県北中城村から各地へ移民した人達の聞き書きをみると、1899（明治32）年生まれの与儀正真さんは、1925（昭和元）年にフィリピンのダバオに出稼ぎに行ったが、それまでは15歳か

ら26歳まで青年団に属して団長を勤めた。²⁸⁾

移民地では、北米・南米でも、青年会が県人会や日本人協会などの日本人中央団体に先行したことが大きな特色である。それは、移民の多くがフロンティアを求めた若い人達で、もともと日本で青年会または青年団の活動の経験があったため、移民地でも同じような活動を行うことが容易であったことが考えられるだろう。

本稿では、日本人移民地における青年集団史研究の取り掛かりをつけ、どこに問題があるのか、提起することに主眼を置いた。したがって、移民地での史料採訪を行っておらず、主に和歌山市立図書館移民資料室架蔵の史料によって検討した。考察の対象範囲も、ハワイ・アメリカ・ペルー・ブラジルについてののみしか検討しえなかった。今後、これを基礎に、本国の動きとの関連や第二次大戦後の移民地青年団の動向など、検討を進めて行きたい。

注

- 1) 増補再版編集委員会、追田正男他編『増補再版 ハワイ日本人移民史』1977年刊
ハワイ日本人連合協会発行参照。
- 2) 布哇仏教青年会聯盟『同胞』第378号、昭和8年2月
- 3) 前同
- 4) 前同「噫、今村総長」
- 5) 『同胞』第378～380号、昭和8年2～5月
- 6) 青木秀作「青年運動の目標」(『同胞』第373号、昭和8年7月)
- 7) ハワイ青年会成立年代別
1900代 1910代 1920代
5 20 27
- 8) 河田 登『移民の経験記』上・中・下・下巻続編、昭和49年刊、非売品
- 9) 在米日本人会編『在米日本人史』1～128頁
- 10) 紐育日本人会編『紐育日本人発展史』62頁、大正10年刊、1984年、PMC 出版復刻版
- 11) 在米日本人会編『在米日本人史』585～6頁
- 12) 南加州日本人七十年史刊行会編『南加州日本人七十史』467頁、1960年刊、南加州日系商業会議所発行
- 13) 北米沖縄人史編纂委員会編『北米沖縄人史』75～91頁、1981年刊、北米沖縄クラブ発行
- 14) 前同書 81頁
- 15) 前同書 100頁
- 16) ペルー新報社『在ペルー邦人75年の歩み』1974年刊参照。
- 17) 『在秘同胞年鑑』87頁、昭和10年刊。リマ理髪組合の発足時の軒数は、同書49頁では25軒となっている。

- 18) 前同書49頁
- 19) 前同
- 20) 前同
- 21) ペルー新報社『在ペルー邦人75年の歩み』157～60頁、1974年刊
- 22) 「本邦少年団及青年団関係雑件」外務省外交史料館所蔵 (I. 1. 10. 0. 5)
- 23) 香山六郎『移民四十年史』127～31頁、1949年刊
- 24) トレスパラス開拓二十五周年記念誌編纂委員会編『トレスパラス移住史』1～14頁、1960年刊、トレスパラス青年聯盟発行
- 25) 前同書24頁
- 26) 前同書68～70頁
- 27) パラグアイ日本人移住五十周年記念祭典委員会記念誌編纂委員会編『パラグアイ日本人移住五十年史—栄光の礎—』216～17頁、1987年刊、同刊行会発行
- 28) 『北中城村史—移民編—』第3巻 441頁、2001年刊